

「富豪と温泉宿」

「あの温泉は、ゴミ屋敷ぞ」

大富豪の標的は
とある温泉宿だった
周囲が止めるのも聞かず
ブルドーザーで突っ込んで
大黒柱をぶっ壊す

「一丁上がりだ、ガハハハ」

主人は驚き逃げていく
そもそもこの宿昔から
富豪の流した悪評で
客はほとんどいなくなった
残されたのは家族達
主人のきつい暴力に
苦勞していた家族達

怖い主人はもういない
ほつとするやら、さびしいやら
とにかく住処はムチャクチャだ
無残哀れやブルドーザーに
轢かれた家族は戻らない

富豪と温泉宿

富豪と温泉宿

「こんな富豪めオヤジをかえせ」

怖い主人が好きなのか、
家族の誰かが嘔み付いた
「オレこそ次のご主人だ」
そんな野望を押し抱き
富豪をつねる奴もいる
「おまえが諸悪の根源だ」
恨みのブルドーザーなれど
他には屋根の支えなし

しかし家族の大半は
平和に生活したいだけ
行方も知れぬ主人など
今や考えたくもない
ただこの屋根はいただけぬ
夜もつかつか寝てられぬ

かたや富豪は不甲斐なく
嘔み付く奴に手こずって
宿はなかなか直せない
さつき大喝采をした
富豪の家族達さえも
後には引けぬ今になり
やめるやめると外で言う

「オヤジの部屋で見つけもの」

「それは家宝の金屏風」
「コラあの時はオレ達を、
オヤジに告げ口しただろう」

「富豪め絶対許さんぞ、
ワシの初孫殺したな」
「この我々の温泉に、

勝手に溝を掘らないで」
「明日の我等の生活を、
一体どうしてくれるのか」

「うるさいうるさい、うるさいぞ

「ゴミを溜め込むやつが悪い
宿もきれいにしてやるわい」
しかしド派手に突っ込んだ
富豪が掃除するはずの
ゴミは一つも見つかからない

「ブルドーザーに乗っかって
富豪は温泉ほしいだけ」

「そう言われるのは癪だから
家族はこれで、自由だぞ」
富豪はしきりと繰り返す
だが移り気なこの富豪
どこまで本気で言うのやら

「お前ら、早く手伝えよ」

小指に嘔み付かれたままで
富豪は近所に怒号する
片手で梁を上げたとして
うまく直せるわけがない
「この温泉はワシのもの」
「そう言いかけた口の端が
他人を当てにしはじめる

「あれ富豪様、大丈夫？」

近所の人もはじめから
心配そうに見ていたが
富豪の息は臭けれど
傾く宿は見てられぬ
太鼓持ちにはなおのこと
「ご乱心でも富豪との
付き合いまでは捨てられぬ

「オマエらどうせ富豪の手先
面を見るのも腹が立つ」

家族のうちのまた一人
誰彼かまわず殴りつけ
親父譲りの凶暴さ
家族の誰も止められぬ
富豪にだって止められぬ
危なっかしくて近づけぬ

「宿に入るはまかりならん！」
二件隣の富豪嫌い
近所に向かって石を投げ
他人の干渉嫌うくせ
火事場ドロボウお手の物
相手は富豪のはずなのに
回りまわって結局は
宿の家族を困らせる

傾く宿に恨まれし
ブルドーザーをただ退けば
屋台骨ごと崩れ去る
瓦礫の中にただ見るは
傷を負うての仲違い
はや柱のみ建て代えて
そろりそろりと引き上げよ
噛み付く者に物言わせ
噛み付く口を離すべし
殴る腕には筆持たせ
明日の宿を描かせん
千客万来繁盛の
温泉宿を築くべし
万古に響く名湯を
営む家族に還すべし

出すぎた富豪のおせっかい
ゴミの所在はどこへやら
家族の自由説くならば
宿の出湯に二心のなきを
行いにてぞ明かすべし
無碍に奪いし命の供養
利を説く前にいたすべし
隣近所も富豪に聞かず
家族の声に応うべし

宿の主は家族なり
宿の主は家族なり

「富豪と温泉宿」
A.Matsui
Dec. 7, 2003

「富豪と温泉宿2」
宿の主は家族なり
宿の主は家族なり

ここは宿から二件向こう
富豪嫌いは地に呪う
「富豪の召し出す砂糖壺
掠め取るべし荒らすべし」
かくして宿の内と外
黒き悪魔の地より出で
鈍く光れる鎌を振る

誰の投げたか石ころに
前歯を二本へし折られ
息をひゅうひゅう太鼓持ち
「今こそ宿を助けるだ！」
富豪はいたく上機嫌
宿の主を気取りだす
「助ける奴だけ山分けじゃ」

何しに行くのか太鼓持ち
仕事の手配を期待され
物騒な服に身を包む
何しに来たのか太鼓持ち
宿に着いたはよいけれど
歯抜けの物言いもどかしく
寢床の工面に一苦勞

温泉横のほら穴で
先の主人が捕まった
富豪はたいそう喜んだ
「これから楽になるわいな」
噛みつかれたる小指さえ
ほどけぬままでうそぶいた
しかれど何も変わらない

厨に居ついた太鼓持ち
いかつい服に似合わない
お愛想振って家族から
心証得んとしながらも
大枚はたいて土壘積み
やつと寢床は安心と
一つ蛇口を直すのみ

宿から遠き西の家
黒き悪魔が放たれた
悪魔は光る鎌振るい
人の廊下を壊しゆく
主は隠居し、宿に居る
守衛をすべて召し返す
誰かが一人ほくそ笑む

さて踏み込んだ口実の
「ミはさつぱり見つからぬ
目利きの手下も諦めた
富豪はおどけて誤魔化すが
誰もがよけいにいぶかつて
休む間も無き大罵声
はてさていかがしたものか

こともあろうかこの富豪
宿の一人を手なずけて
黙らせようと試みた
これがいよいよますますかつた
「おのれ我等を無視するか！」
富豪の指がちぎれ飛び
ちぎれた指を踏みつける

わつと富豪は半狂乱
ブルドーザーをぶん回す
大黒柱の代わりなる
動かせぬもの動かして
先祖代々祀り来た
神棚までも打ち壊し
またも家族が下敷きに

何とか宿を直さんと
我慢重ねた家族さえ
顔を真つ赤に怒り出す
喧嘩していた人々も
手を打ち揃え怒号する
「神をも恐れぬこの仕打ち
貴様を終生許さんぞ」

とんだ富豪のとばつちり
後ろ手にされ太鼓持ち
絡め取られた指二本
逃げぬと切るぞと脅される
されど富豪の目が光る
自分は無茶を為すくせに
仲間の離反は許さない

「こちらは太鼓持ちの家
振りほどけ」「いや帰るべし」
大騒ぎする家人達
彼の背後に腕を取る
正体さえも知れぬまま
いつしか指も痺れゆき
有るや無しやも知れぬまま
遠く屈服せし日より
下駄を預けし富豪様
逃げ帰るにもままならず
歯抜けの口に息漏らし
時いたずらに過ぎゆきて
留まるも去るも地獄なり
富豪の好きな地獄風呂

いざ如何せん太鼓持ち
ああ哀れなり太鼓持ち
融通利かぬ 太鼓持ち
優柔不断の 太鼓持ち
高給取りの 太鼓持ち
富豪の家来 太鼓持ち
技に秀でた 太鼓持ち
交渉下手の 太鼓持ち
今や落ち目の太鼓持ち
律儀者なり 太鼓持ち
少し間抜けな太鼓持ち
本当は賢い 太鼓持ち
手を汚さない太鼓持ち
臆病者の 太鼓持ち
誰もあやめぬ太鼓持ち
心優しき 太鼓持ち
私の好きな太鼓もち
私の愛する太鼓もち
私の太鼓持ち

「富豪と温泉宿3」

宿の主は家族なり
宿の主は家族なり

ああ哀れなり太鼓持ち
家人の口論聞き及び
不思議な言い訳口にする
「この指三本取られたは、
指それぞれの落ち度なり」
これには周囲も手を止めて
しばしあんぐり口開けた

さても乱れし声の中
指三本は離された
さぞ喜ぶかと思いきや
家人はよけいに大騒ぎ
「人騒がせな指たちだ」
「すべての指を隠すべし」
世にも不思議な大合唱

ここは宿から二件向こう
由緒正しき大伽藍
寺を追われた人々に
恋い慕われた一導師
足も萎えたる彼の身を
寺を奪つた者達が
大砲撃つて裂き殺す

野辺送られし師の門徒
嘆き悲しむ人々を
檄して戦を宣したが
喪も明けぬうち彼もまた
悪しき槍にて屠られた
一人富豪は拍手して
誰もが眉をひそめたり

皆黙したり西の人
そろりそろりと歩き出す
ここの家人も指取られ
帰れ帰れと脅された
隣る寺院の住職は
彼等を手厚く招き入れ
共に平穩乞い祈る

富豪と温泉宿

富豪は家人を急ぎ立てて
湯殿の修理に回らせる
下男はいそいそ支度して
湯守名乗ってペンキ塗り
卑猥な色に塗られゆく
宿の家族はまた怒り
石に木切れの乱れ飛び

ブルドーザーの大富豪
息切らしつつぶん回す
「貴様は敵だ、貴様もだ」
鼻息荒く思慮も無く
大祭壇に手を出した
吹き飛ばされて地を打つは
黒くゆがんだ子の頭

味方の皆も曇り顔
やや取り直し大富豪
乱暴するのも飽きたのか
町内会の会長に
始末を頼むと言い出した
始末を頼むと言いながら
大工に見積もり聞いている

向かいの家に仕込まれた
悪魔の毒は除いたが
悪魔の鎌は休み無く
新たな餌食斬り刻む
「屈さぬ屈さぬ、屈せぬわ！」
よけいに眉間をぎりぎりと
頑なにする大富豪

富豪の下男は業者やし
非難に開き直つたか
宿の家族を捕まえて
慰みものにし始めた
閻魔様でも涙ぐむ
邪淫極まる醜悪さ
「家族の自由」はどこへやら

募る落胆憤激に
煮えくり返る家族達
「主以下なりこの富豪
正体見たり外道なり」
「……ワシら全てがそうじゃない」
面目立たぬ言い訳も
さらにか細き言葉尻

富豪と温泉宿

富豪と温泉宿

大義正義の方便に
彼の家人も騙されて
否、騙されるふりをして
私腹肥やして正義面
盗み殺しに詐欺拷問
宿の家族を苛んで
何の誉れの有るものか
世に比類なき大富豪
家紋に謂うは気高くも
「初心忘れず皆の衆
こぞりて家を盛り立てよ」
初心忘れし家人達
家名を汚す愚者揃い
富豪自身もその一人

やれ嘆かわし大富豪
今やその手は膿まみれ
何処に伸ばし開いても
悪しき臭いを撒き散らす
膿は余人になすりつけ
治すものでもあるまいに
宿も家族も可哀想
膿める富豪も可哀想

大義に欲を絡めれば
人の顔にも鬼宿る
欲に大義を絡めつつ
人面蛭が地を覆う
人、鬼となり蛭となり
言葉巧みに人喰らう
嬉し樂しの温泉が
今や膿血地獄なり

人食いせんと寄る宿は
世の何処にも存すまじ
諸人集う旅の宿
魑魅魍魎はお断り
遠き日の宿詩に文
月詠む人の賑わいに
心安らく湯の花を
咲かす出で湯の栄えあり
宿の主は家族なり
宿の主は家族なり

「富豪と温泉宿」
May 6, 2004
A. Matsui

富豪と温泉宿

「温泉と富豪」 Dec. 7, 2003 ~ May 6, 2004
A. Matsui
Suifu City
Winged-White:
<http://www.ne.jp/asahi/winged-w/BV/>